

優良賞

今金町立今金中学校 3 学年 ^{すずき}鈴木 ^{えいた}瑛太
見えない壁



皆さんは聾者という言葉を知っていますか？聾者とは簡単に言うと耳が聞こえない人たちのことです。

皆さんは聾者についてどんな考えを持っていますか？またどのように接していますか？実際話すときに自然と見えない壁を作っていませんか？私は以前まで聾者について気にすることもなくその言葉も全く知りませんでした。

しかし、最近経験したことにより考えが変わりました。

その経験とは、聾者のスキーマの日本代表の選手たちと一緒に合宿をしたことです。

最初は、聾者の人たちはどのように話すのだろうという疑問もあり、緊張もしました。耳が聞こえない人たちは全員手話で会話をしていると思っていたので、私は手話を全く知らないため聾者の人たちとはコミュニケーションが取れないと思っていました。

ですが、少し勇気を出して壁を越えれば簡単に会話をすることができました。耳が聞こえなくてもコミュニケーションをとる方法はたくさんあり、その中でも相手にあった方法で会話することができるのです。

私が特に話した人は、千葉県の高校2年生の女子選手で補聴器をつけていたため、僕達の声が少し聞こえます。会話をするときに自分の口元を見せ、口をはっきり動かしながら話せば、十分に私の話を聞き取ってもらうことができました。相手に自分の言うことが通じたときは、とても驚きました。相手の方は話すことが苦手だったのでスマートフォンを使って伝えたいことを伝えてくれました。スマートフォンの他にもジェスチャーをして伝えることができました。

私は自分の町のことを紹介したいと思い、去年の夏に大雨が降って洪水が起こったときの事を話した際は、ジェスチャーで伝えたとこ、相手の人がスマートフォンで調べてネットの記事を見せてくれました。自分のジェスチャーが伝わっていたことがわかり、とても嬉しかったです。

このように簡単なことでも聾者と健常者との壁を越えてコミュニケーションを取ることができます。

私が実際に接してみて、聾者の人は私達と何も変わらず、同じなんだなと思いました。普通はそういう考えをもつのが当たり前なのかもしれませんが、改めて接してみて思ったことは耳が聞こえないということは私達が想像しているほど不便ではないということです。多少の手助けは必要だとしても「聞こえない」というところ以外は、健常者と同じだと思います。

今この世の中には障がい者を理由に差別する人もいます。なぜ障がいがあると差別している理由にはならないと思います。

そんな中でも努力を惜しまない人たちがいることを知りました。

聴覚障がい者のためのオリンピック「デフリンピック」に出場する選手たちです。「デフ」とは聾者という意味です。デフリンピックは4年一度開かれます。種目はオリンピック、パラリンピックと似ています。2025年デフリンピックは日本の東京で開かれます。日本での初開催です。夏季大会では70か国、冬季大会では30か国が出場しています。ランプの色でスタートの合図をするなど、耳が聞こえなくとも競技に挑むことができます。

最初に言ったように、聾者の人たちは耳が聞こえない以外は、健常者と全く同じであり、理解を深め合えば簡単にコミュニケーションを取ることができます。障がいあっても健常者と同じことができると感じました。耳が聞こえなくても頑

張っている人がいるということをみなさんにも知って欲しいです。

私は聾者だけでなく、誰もがそれぞれの個性や得意なことを生かせる社会に世の中が変わってほしいと思います。そのような社会を「共生社会」と呼びます。そういう「共生社会」を目指して、みなさんも自分たちに何ができるのか一緒に考えてみませんか。